

（４）領域別に分けた余震活動推移

余震域（図 1-1 の領域 a）を短冊状（図 4-1 の領域 b～e）に分けて活動の推移をみた。余震は岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその東方沖の広い範囲で発生していたが、時間経過と共に低下してきている。しかし、その推移は領域毎に特徴があり様ではない。陸域の領域 b については、福島県浜通りの地震活動を除くと、東北地方太平洋沖地震前後で活動に大きな変化が見られない。沿岸域の領域 c では、低下しつつも現在も活発な余震活動が見られる。領域 d では、積算の傾きも緩くなり活動は低下してきた。領域 e では、余震活動は低下してきたが、2012 年や 2013 年に M7 クラスの地震が発生している。

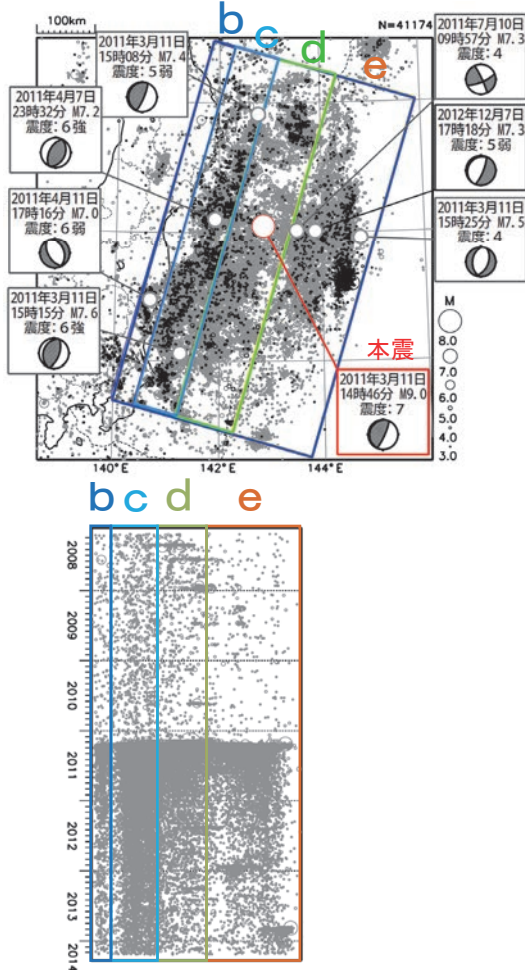
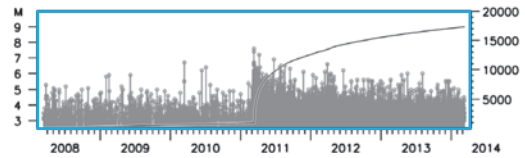
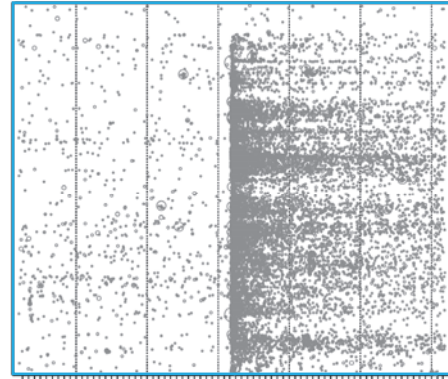


図 4-1 震央分布図と時空間分布図

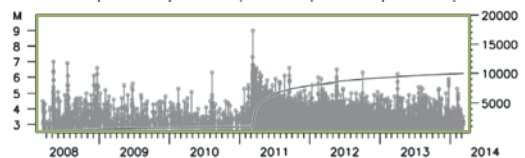
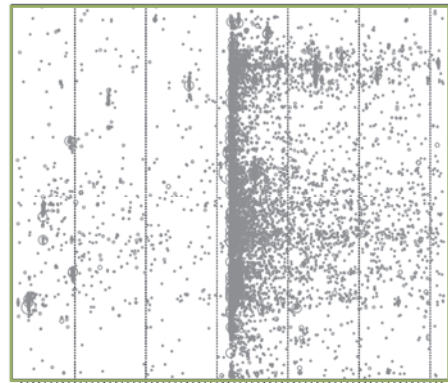
(2011年3月11日14時46分～2014年3月11日14時45分)

領域 b～e の範囲は、図 1-1 の領域 a に同じ。発震機構は CMT 解

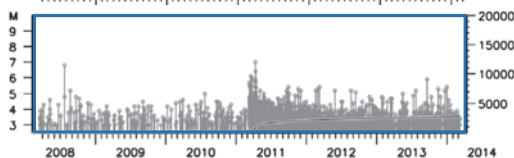
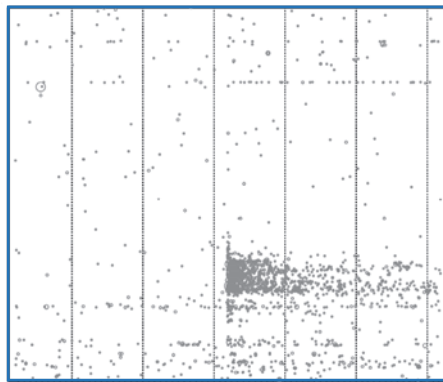
領域 c



領域 d



領域 b



領域 e

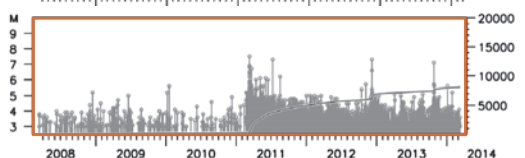
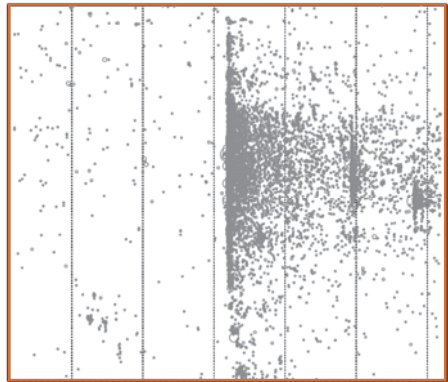


図 4-2 各領域（図 4-1 の領域 b～e）の時空間分布図と M-T 図及び回数積算図

（左下：領域 b 右上：領域 c 右中：領域 d 右下：領域 e）